

学位論文内容の要旨

学位申請者	岡村 利恵 【ジェンダー学際研究専攻 平成22年度生】	要 旨
論文題目	未就学児を持つ母親の ICT 利用と生活充実感-日本と韓国・米国・スウェーデンの比較から	<p>スマートフォンやタブレットの所有率が急激に増加し日本社会のデジタル化が進む一方で、子育てにおける ICT（Information Communication Technology）の利用に対しては批判的な風潮が見受けられる。このような背景を基に、本申請者の研究では母親の子育てにおける ICT 利用、その利用と母親の育児資源や育児規範との関連、更に ICT 利用と母親の役割適応と生活充実感の関係について、国際比較（日本、韓国、米国、スウェーデン）の視点から明らかにした。作業仮説は先行研究と社会関係資本理論、家族システム理論、Diffusion of Innovation 理論を援用して導き出し、『インターネットと家族生活に関する調査』プロジェクト（科学研究費基盤研究（A）石井クンツ昌子代表者）により 2016 年～2017 年に収集されたデータを用いて検討した。本研究における対象者は母親（日本 1194 名、韓国 1021 名、米国 1001 名、スウェーデン 986 名）であり、データは重回帰分析とパス解析を用いて分析した。</p> <p>主な結果として、子どものネット依存を最も心配しているのは日本の母親であり、特に子どもに動画や映像を見せる頻度が高い母親ほど、あるいは伝統的性別役割分業意識が強い母親ほど、子どものネット依存を心配していることが示された。母親の生活充実感を上げる要因として 4 カ国で共通していたのは母親役割適応が高いことであったが、日本と韓国の母親の場合は、スマートフォン・タブレット利用時間は生活充実感に負の影響を与えていた。また、夫との育児に関するコミュニケーションが頻繁であることは母親の ICT 利用を促していることが明らかになった。</p> <p>本論文は以下の点で高い評価が得られた。第一に、先行研究が極めて少ない母親の ICT 利用と役割適応と生活充実感に関して、社会関係資本理論、家族システム理論、Diffusion of Innovation 理論の視点から理論的なモデルを構築し仮説を導き出したこと、第二に、4 カ国で収集されたデータを分析し、国際比較をしたこと、第三に、重回帰分析とパス解析から、母親と子どもの ICT 利用とその影響についての学術的、教育的、政策的、実践的なインプリケーションを提示できたことである。</p>
審査委員	(主査) 教授 石井クンツ 昌子	
	教授 藤崎 宏子	
	教授 杉野 勇	
	准教授 申 琪榮	
	准教授 De Alcantara Marcelo	